

# 昭和SPレコードで辿れば

## 東郷レコードと軍人勅諭

SPレコード収集家 ■ 城内 實

### (一)

大変なことであることには間違いない。

### (二)

九月三日付の産経新聞に「東郷元帥の訓示刻んだレコード大阪の民家で発見」という見出しの記事があった。読者の中にはこの記事を御記憶の方もおられるのではないかと思う。せっかく「発見」された方には申し訳ないが、このレコードは残念ながら、新聞に掲載して世間に発表するほどの超稀少盤ではない。なぜなら、筆者ですら簡単に手に入れることができた代物だからである。

稀少度から言えば、この東郷レコードよりも、前回紹介した尾崎行雄の「普選投票に就て」の方がはるかに高い。ただ、稀少であるなしかかわらず、東郷元帥の肉声が聞けるだけでも

東郷大將は連合艦隊を率いて世界に冠たるロシアのバルチック艦隊を壊滅させるという海戦史上に残る大偉業を成し遂げ、日本の近代化に大いに貢献したが、戦後の今となっては東郷元帥の業績も自虐史観に満ちた中学、高校の歴史教科書においてさして評価もされず、教科書によつてはその名前すら登場しない。

はるか遠くのフィンランドにおいてさえ、宿敵ロシアを破つた功績を讃えてか、現地のビール会社がラベルに軍装の東郷の勇姿を採用しているののである。この東郷レコードが発売され

念」のレコードが吹き込まれた。軍人勅諭五十年記念のレコードは次の文句で始まる。「私は東郷であります。謹んで惟おもうに明治十五年一月四日、畏くも明治天皇におかせられては、陸海軍人に、尊くも有難く勅諭を下し賜りました。本日は丁度その五十年に相当いたしますので、陸海軍にとりましては、この上もない記念の日であります。」

既に東郷はこの時八十四歳、昭和九年には亡くなっているのだから発せられる東郷の声には覇気はなく、老人独特の枯れた声である。が、この明治の提督が最後の力を振り絞ってマイクの前に立っている姿が容易に想像され、聴く者を感動させる。

### (三)

東郷平八郎元帥は軍人勅諭下賜五十年にあたる昭和七年一月四日、東京放送局で記念講演をするこゝになつていた。万一ラジオ放送がとりやめになるような場合に備えて昭和六年十二月二十七日、軍装を身にまとつた元帥は麴町の自宅で厳かに講演内容を録音した。こうして東郷元帥の「軍人勅諭下賜五十年記

念」のレコードが吹き込まれた。軍人勅諭五十年記念のレコードは次の文句で始まる。「私は東郷であります。謹んで惟おもうに明治十五年一月四日、畏くも明治天皇におかせられては、陸海軍人に、尊くも有難く勅諭を下し賜りました。本日は丁度その五十年に相当いたしますので、陸海軍にとりましては、この上もない記念の日であります。」

### (四)

続けて東郷は次のように述べている。「(中略)然して御勅諭の前段には日本の軍隊は恐れながら神武天皇の昔より、じきじきに天皇の率い給う軍隊であることを明示遊ばされておるので

